

第1回 国立公園満喫プロジェクト有識者会議

議事要旨

1. 日時：平成28年5月23日（月）9：30～11：30
2. 場所：中央合同庁舎5号館 環境省第1会議室
3. 出席者：

（政府側）

丸川珠代環境大臣、田村明比古観光庁長官、森本英香大臣官房長、奥主喜美自然環境局長、
亀澤玲治大臣官房審議官、岡本光之国立公園課長、吉田一博自然環境整備課長、田邊仁国
立公園利用推進室長

（有識者、敬称略）

石井至（有限会社石井兄弟社社長）

江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

加藤誠（株式会社ジェイティービー旅行事業本部観光戦略部長、株式会社 JTB 総合研究所
客員研究員）

デービット・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

野添ちかこ（温泉と宿のライター）

星野佳路（株式会社星野リゾート代表取締役社長）

ロバート キャンベル（東京大学大学院比較文化研究室教授）

涌井史郎（東京都市大学環境学部教授）

4. 議事概要

○丸川環境大臣より冒頭挨拶

環境省では、3月30日に政府として取りまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、「国立公園満喫プロジェクト」に取り組むこととした。我が国の国立公園には80年以上の歴史があり、優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地域特有の人々の暮らしにふれられるのが我が国の国立公園の特長。「国立公園満喫プロジェクト」では、こうした魅力ある日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図ることにより、訪日外国人旅行者の国立公園利用者数を現在の年間430万人から2020年には2倍以上の1,000万人に増やすことを目指している。

このため、この夏を目処に、まずは5カ所程度の国立公園を選定して、このプロジェクトを集中的、計画的に実施していく予定。委員の皆様方には、「国立公園満喫プロジェクト」の具体的なコンセプトの検討や実施箇所の選定等を行う上で専門的観点からご助言を頂きたい。第1回となる本日の会議では、国立公園のインバウンド拡大に向け、現在の国立公園の課題や目指すべき方向性などについて、また、そもそも今の国立公園にはこうしたホスピタリティが欠けているという指摘も含め、それぞれの専門的立場から、忌憚のないご意見

をいただきたい。

○田村観光庁長官より挨拶

3月30日にとりまとめた新たな観光ビジョンにも、国立公園を世界水準のナショナルパーク化することが位置づけられている。国立公園は日本の豊かな自然が凝縮された観光資源であり、宿泊施設等の滞在環境の改善やアクティビティの充実などにより、旅行者にとって魅力的な目的地となるポテンシャルを秘めている。今回、この「国立公園満喫プロジェクト」の具体的なコンセプトや実施箇所の選定を行うためにこの有識者会議が設置されたことは観光庁としてもありがたく、全面的にバックアップしたい。

観光庁としてできることとしては、対外的な情報の発信、観光地の経営としてのDMOの育成、旅行商品の造成等がある。また、国土交通省全体としては、国立公園だけでなく、周辺地域と整合のとれたまちづくり・景観づくりなどについてお手伝いができると思う。これらの施策を強力に推進してまいりたい。委員の皆様には、実施箇所の選定のみならず、国立公園の活性化に何が不足しているか、どのような改善策が講じられるかについてもご意見をいただきたい。

議事（１） 国立公園満喫プロジェクト有識者会議の設置について

○事務局から資料1-1～1-3に基づき説明。各委員からの異議なし。

議事（２） 国立公園満喫プロジェクトの実施について

○事務局から資料2-1～2-3に基づき説明。

○有識者からの質疑応答

- ・利用者数はどのような方法でカウントしているのか（江崎委員）。
- －観光庁の訪日外国人調査において外国人を対象としたアンケートをしており、その中で国立公園に重なったところを集計している（事務局）。
- ・3.5億人の利用者があるというが、日本人の旅行現役人口を8,000万人としても全員が毎年3回以上行っている計算になる。カウントはどうなっているのか（アトキンソン委員）。
- －各都道府県の観光統計を基本に算出している。したがって同じ方が複数の場所に行っても除外することができず、のべ利用者数となっている。実際の個人ベースで何人の方が国立公園に来ているかはこの数字では表現できていない（事務局）。
- ・国別利用者数は非常に重要なファクト、エビデンスだが、国立公園に入るときに登録し

ているわけではないと思う。(キャンベル委員)

ー日本の国立公園には入る際に登録はしていない。あくまで、どこの観光地にいったかのアンケートに基づいたもので、そこまで正確ではない(事務局)。

- ・観光庁ができるまでは、日本の観光統計は統一されたスペックでは整理されてこなかった。観光庁発足以降かなり明快なものになったという認識(涌井座長)。
- ・国内の利用者数については、都道府県ごとの統計の取り方は全く統一されておらず、そこを統一する準備を進めている。インバウンドでどれだけ旅行者が来ているかを捕捉しなくては行けないが、今の都道府県の統計ではどうしても域内の方も含まれている。まだまだ改善の余地のある分野と認識している(田村観光庁長官)。

○各委員それぞれの立場から、国立公園がどのように魅力を高めていくか、利用者を増やしていくべきかについて意見。

【石井至 委員】

- ・2020年までに外国人旅行者430万人を1000万人というのがお題。5カ所程度選定することだが、この5箇所は2倍、3倍にしないと全体で目標は達成できないので相当な努力が必要。観光庁の取組との連携や観光ビジョンで取り上げている各種取組をフル活用しなくては行けない。インバウンドでは「ゴールデンルート」以外に如何に行ってもらえるか。広域観光周遊ルートを定めたがそことの連携をまずは考えるべき。
- ・強いところをさらに伸ばすという考え方と、今は落ちているがこれから育てていくべきという考え方(例えば東北や九州など)がある。
- ・観光は近所の国から来るというのが大原則。アジアが85%であれば一義的にはアジア向けの対策を打つべき。同時に欧米のほうにも力を入れていく。国別には中国・台湾は他の国に比べて国立公園に来ている割合が高い、関心が高いので、これらの国へのアピールをどうするかが重要。また、ビザの緩和をしている国々(フィリピン、インド等)、JNTOが新たな拠点を増やす地域(スペイン、イタリア、ロシア)への情報発信も意識すべき。JNTOはアジアの国々へは絶大な影響力、プロモーション力があるので是非連携していくべき。
- ・選定するのは気楽だが、倍増という目標を達成するためには各地域の作りこみが重要。この作りこみの段階もこの有識者会議の役割としてほしい。
- ・トイレは洋式にすればいいというものではない。中国の方等は、他の人と同じ便座に座る洋式トイレには抵抗がある。

【江崎貴久 委員】

- ・外国人観光客を対象に調べたところ国立公園と認識して来た方は60%だった。入口も大事だが、結果的に国立公園であったと知ってもらうのも大事。地元も国立公園だという認識で取り組んでもらうことが大事。フィールドは国立公園なのに「国立公園」という

単語が出てこないことが多く、意識付けが必要。

- ・パッと見て国立公園とはわからず、奥深いのが日本の国立公園。「満喫」するにはなるべく長く時間を取っていただきたい。限られた時間で海外の方に国立公園を知ってもらうにはガイドの存在が必要不可欠。まだまだガイドは成熟していない状況で差もある。
- ・地域で直接話ができる国の機関は、実は自然保護官しかいない。そうした「近い」保護官の役割を重要視し、業務の一部としてガイドなどをしていくのは必要ではないか。
- ・求められるガイドの品質がひとくくりにされているが、行き届いたサービスができるガイドと、保護官のような深い知識を持つ専門家のガイドの2つのガイドが求められている。地元で保護官も含めた人の活用を考えるべき。
- ・マーケティング等の調査結果を現場で活かすことが必要だが、地元の人が調査や分析に関わるようにしないとデータが活用されない。
- ・日本型のエコツーリズムは地域への波及効果を重要視しており、海外からも視察が来ている。日本らしさを持って進めるのが大事。

【加藤誠 委員】

- ・ナショナルパークとしてのブランド化を図る上で世界的な認知度不足は問題。国民はどうか、ツーリズム産業に関わるものでも、32の国立公園を全部言える人間はいない。ブランド化、国立公園のポテンシャルを引き出す上で、受入体制の充実は非常に重要。「余暇を楽しむ場所として国立公園がある」ことを国民に知らしめることが重要。
- ・例えば、中部山岳、支笏洞爺のオーストラリア人が多いが、これは魅力的なパウダースノーを求めた結果であり、国立公園自体が目的ではない。一方、受け入れる地元も、国立公園と意識して受入体制を整備したか。国立公園をブランド化する上では、地域における合意形成が非常に重要。
- ・日本の国立公園は所有権が複雑。所有権の問題で整備が遅れていることもあるだろうが、所有権が様々ということは、官民が連携する土壌があるというメリットでもある。DMOなどの観光のための受入体制を整備する観光庁の流れと連携して国立公園の魅力を徹底して国民に知らしめるべき
- ・JTBが道東で行った独自調査では、欧米の方は「ナショナルパークに行きたい」という方が非常に多い。世界的な認識では「国立公園＝自然を楽しむエコツアーの聖地」という意識がある。その意識を土地所有者含め地域と合意形成していくことが重要。
- ・メニュー作りの前に仕組みづくりがある。しくみづくり→メニュー・コンテンツ作り→仕切りとしてのマネジメントという段階を踏んで国立公園のブランド化を進めていくべき。
- ・実施箇所の選定に当たっては、省庁連携・日本版DMOも視野に入れること、「日本のエコツーリズムの聖地はここだ」と言える地域を選んでいくことが重要。

【デービット・アトキンソン 委員】

- ・ J N T O のホームページに「国立公園」というワードが載っていない。環境省のホームページも指定年や面積は載っているが観光に値しないデータであり、PRの問題。国立公園を観光資源として変えていく必要がある。
- ・今日の資料は今来ている人たちの分析にとどまっている。ポテンシャルが十分に測れているかという疑問。例えば世界銀行のデータではドイツは年間のべ 8,300 万人が海外旅行しており国際的に大きなマーケットになっている（フランスは 2,800 万人）。
- ・世界の観光は地域内が 80%、地域外が 20%というのが水準。日本の潜在的なマーケットを計算するとアジア 55%、欧州 29.7%、アメリカ 9.8%を目指すことが可能という結果になる。
- ・今年は「グランピング元年」であるがネット検索しても日本のサイトは出てこない。「国立公園に泊まる」「国立公園で食べる」等でも日本のサイトはヒットしない。
- ・国立公園は食べるところ、座るところ、泊まるところがほとんどないので整備すべき。日本の観光地は過去の日帰り国内観光を前提に作られている。約 30 年ぶりに富士山の山小屋に泊まったが昔のまま。あの値段設定で世界の観光客を泊まらせるというのはいかななものか。
- ・日本独特の文化体験がある。観光の基本は多様性。多様なホテルや食べるところの整備も重要。多様な体験ができるようになれば 4,000 万人も高い目標ではない。

【野添ちかこ 委員】

- ・温泉も保護と管理のイメージで規制がメインだったが、環境省も地域活性化を重視し始めているようである。昨日の「温泉サミット in 東京」でも、定期的なネットワークや現状に合っていない温泉法の改正などの意見があった。
- ・国立公園内の温泉地についても、国立公園と意識していないケースが多く、観光庁との連携が重要。例えば地獄谷のスノーモンキーは一枚の写真がきっかけで多くの外国人がめがけてやってくるようになった。地域の魅力を知っている人、例えばレンジャーが情報発信をする仕組みや、魅力的な情報が勝手に集まってくる仕組みを構築することが重要。本日配布されている国立公園の冊子も自然の写真だけで何ができるか伝わってこない。来た人が何ができるかが伝わる情報発信を。
- ・昭和 2 年には「日本新八景」が国民参加で選定された。観光地としてどの国立公園が魅力的なのか、アンケートだけでなくランキング、番付のようなものも有効ではないか。

【星野佳路 委員】

- ・インバウンド増加を目標にしているが、観光客の大半は日本人。「外国人利用者を伸ばすために」というよりは、日本人を含めた観光客にも利用しやすくという視点の方が地

域の協力を得られやすい。インバウンド増加は結果として付いてくる。この機会に国立公園を保護し利用していく長期的なビジョンを考えるべき。

- ・国立公園の利用において、観光文化における「自己責任」を徹底すべき。現在は環境省や林野庁など国が安全も保障するという概念があり、結果やっつけはいけないことの方が多くなっている。大前提として観光客が自己責任という意識を持ち、自ら安全対策をするようになれば、できることも広がり、国立公園がより魅力的になる。
- ・国立公園の規制区分が顧客視点でない。顧客視点では、開発された民間地でも景観のために規制を厳しくしてほしいということもあるし、景観を重視すべき。また、自然度の高い重点保護地域でもカフェなどの施設が欲しいということもある。
- ・推進体制として、国立公園の大部分を占める国有林を所管する林野庁との連携が重要。少なくとも選定される5箇所では、環境省、林野庁、観光庁が一体となったプロジェクトチームを作るなど、ビジョンの合意がなければ進まない。
- ・エコツーリズムが非常に重要だが、ガイドは独立した業として採算をとるのが大変なので、ホテルとの一体化を考えるべき。スキーなどバックカントリーで遭難しないための一番の方法は、立入禁止ではなくガイドを付けること。ホテルも環境先進型、循環型とすべき。

【ロバート キャンベル 委員】

- ・省庁連携が重要。観光庁の広域観光周遊ルートはキャッチーで魅力的なネーミングで形も分かり易い。国立公園が日本の地図とどう連動するか。どこに泊まり、どこで遊ぶか、形としてどう認識されるか。国としてのブランド化においては、俯瞰的な、明晰なイメージを、特に海外に対して打ち出す必要がある。「日本とはこういう国だ」という分野横断的な地図を作ることが重要。
- ・外国人旅行者のニーズとして、自然鑑賞や食事は共通しているが、例えば「日常体験」は欧米人のニーズが高く、「温泉」や「ショッピング」はアジアのニーズが高い。国立公園の中で何ができるか住み分けをして、全国でいくつかお勧めのルートを作っておくとよい。
- ・昔に比べるとインターネットの普及もあり言葉のハードルは下がっている。公衆 Wifi も普及が進んでいる。
- ・田舎の奥深くにも外国人旅行者が入っている。しかし、深いところに個人で入って行こうとするときに、地方都市までは行けるが末端の移動手段がない。携帯電話のアプリで、地方であっても配車ができる、カード決済ができるようにするなど、基本中の基本がまだ不十分。
- ・通訳案内士の資格が厳しく閉ざされている。地元の魅力的なストーリーを知っている者、高校生でもできるはずなので開放すべき。
- ・”physical”な環境が劣悪。食べるころの不足、シャッター街等、新陳代謝している

最中だと思うが劣悪な環境をどう改善するか。公有地と民有地の違いなど米国の国立公園との制度的違いをアドバンテージとして地元の個性を出させるのが大事。

【涌井史郎 座長】

- ・結果としてではなく入口としての国立公園という視点にたってブランディングをどう考えるかが非常に重要。今までの歴史からは開発圧力が強く、物言わぬ動植物や自然の立場から規制線を確保してきた。国立公園の制定当時は大変ダイナミックな発想で、日本の大風景を世界化する試みであり、瀬戸内海や雲仙等は極めて国際化していた。そこに出口が見えてくる。
- ・ユーザーは多様なニーズを持っており、国立公園の自然も多様。少品種・大量生産・コスト削減の供給サイドの論理ではなく、多様な行動原則・ニーズに対し、国立公園がどう誘導し、受け入れていくかという逆のアプローチを取ることが非常に重要。
- ・「リゾート」ではなく「リトリート」「自分をリトリートメントする」という考え。その中で、自己責任を持って国立公園の中での行動様式を決めていって、地元との合意形成の上で国立公園のブランディングをしていくことが重要。

○意見交換

【石井委員】

- ・地元が熱心なところでないとうまくいかないの、熱心なところを選定し成功事例を作ってはどうか。

【加藤委員】

- ・受入体制が重要。今後議論していくに当たって、32か所の国立公園それぞれの現状と課題について情報がほしい。主体となる組織やリーダーの有無、所有形態、宿泊施設の数、アクセス等。宿泊施設が充実している、自然が広大である等のテーマで分けて選定することも有効かもしれない。

【アトキンソン委員】

- ・文化財も同様に、座る場所がない、食べる場所がない等、お客目線になっていない。お客目線に立った整備が大事であり、日光東照宮でいえばトイレの前ではなく陽明門が見える場所にベンチが欲しい。外でなく中に食べる場所が欲しい。東照宮も境内で初めてカフェをやった全然満足度が違う。民間を巻き込んで、おかしな開発をせず資源を磨くことが大切。PRより磨くことが大事。

【江崎委員】

- ・「実際に動く人が熱意を持っている」ことが非常に重要。組織体制も考えていくことが

大事。また、これまで景観が守れてこなかったことが気になっている。大事なものを失わないためには、持続して地域の中から景観を守るための資金を生み出していく仕組み（ナショナルトラスト等）が不可欠。地元が国立公園に誇りを持っている、地域が守っているという感覚があればお客にも伝わる。人は人に感じる。国立公園がただの商業施設にならないためにこういう点が重要。

【星野委員】

- ・熱意は重要だがどんな熱意かが重要。中長期的に、国立公園の魅力はどう高めるか、関係省庁含めた体制をどうするか、国立公園を観光と保全が両立した本当のエコツーリズムにどのようにしていくかを真剣に議論してほしい。数は結果なので会社の業績のように気にして達成する必要はない。自然は一旦壊れたら戻らない。インバウンドバブルはいずれ崩壊する。そのときに国立公園が活躍できるくらいの中長期ビジョンを描いてほしい。

【キャンベル委員】

- ・国立公園を地図で見ても複雑で分かりにくいのが、文字で表記するとたちどころにイメージできる。そのギャップをどう埋めるかが課題。例えば10日間滞在するときの国立公園のカップリングを提示していくことは有意義。そのためには、林野庁や観光庁とも連携していかないとスピード感を持って伝わらない。

○涌井座長から、有識者会議の今後の進め方について提案

- ・各委員がプレゼンを行い、それぞれの意見を提示していく方法はどうか（一同了承）。

○事務局より、次回の第2回有識者会議を6月27日（月）午後に予定している旨を連絡。

○奥主自然環境局長より閉会の挨拶

今回いただいたご意見を元に「国立公園満喫プロジェクト」推進に向け事務局でさらに検討を進めて参りたい。さきほど指摘のあった「各国立公園にどのような課題があるか」については、特に「受入体制」がキーワードとなっているが、どのような情報項目が必要なのか、委員の皆様方の意見も伺いながら資料を整理したい。